

高接ぎでブドウ優良品種に早期更新

【背景・目的・成果】経営の安定には、消費者の嗜好性の高い優良品種への更新が望まれますが、苗木による更新では成園化までに5年程度要するのが課題です。そこで、高接ぎ翌年には1樹当たり品種により6~20kg程度の収量を得られる休眠枝を使った安定した高接ぎ法を開発しました。

主枝の切断:3月

高接ぎには、接ぎ木後の活着や新梢伸長が良好な樹勢の良い樹が適します。早期の収量確保や一部被覆による新梢の病害予防のため、接ぎ木部位は主枝の分岐部が望ましい。切断は新梢管理の不要な発芽前に行い、切断面は木工用ボンド等で保護します。



高接ぎ:5~6月

新梢伸長量の確保には、樹皮が剥ぎやすくなった5~6月に、休眠枝を利用するのが有効です。穂木は、せん定時に充実した枝を採取してポリ袋に入れ、冷蔵庫で保管しておきます。

穂木は果樹で一般的なくさび形に削り、パラフィン製のテープで乾燥を防止します。穂木の幅に樹皮を剥いで穂木を差し込み、接ぎ木テープで固定します。接ぎ木部位はテープ等で乾燥を防ぎます。発芽後は穂木がはずれないように、新梢をこまめに誘引します。



その後の管理

主枝延長枝は、冬季には苗木と同様に充実した部分まで切り戻します。翌年は着果量はやや少なめとします。結実当初は、開花期や成熟期がやや遅れることもあるので栽培管理に注意します。



表1 主枝の切断および高接ぎ時期と活着、新梢伸長

供試品種	試験区(時期)		活着数	新梢長 (cm)	節数
	主枝切断	高接ぎ			
シャインマスカット	3月	3月	0/2	0	0
	3月	5月	2/2	550	42
	4月	4月	0/2	0	0
クイーンニーナ	3月	3月	0/2	0	0
	3月	5月	2/2	201	27
	4月	4月	0/2	0	0
	5月	5月	2/2	10	16

注)22年生ピオーネの4主枝に各処理、5月の主枝切断は切り口から樹液の流出が多いため、また3、4月の高接ぎは剥ぎ接ぎが困難なため活着不良

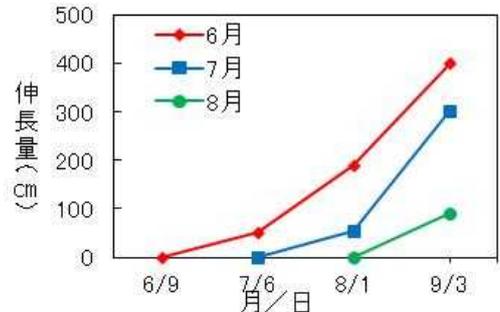


図1 シェインマスカット 休眠枝の接ぎ木時期と新梢伸長量 (中間台: 藤総)

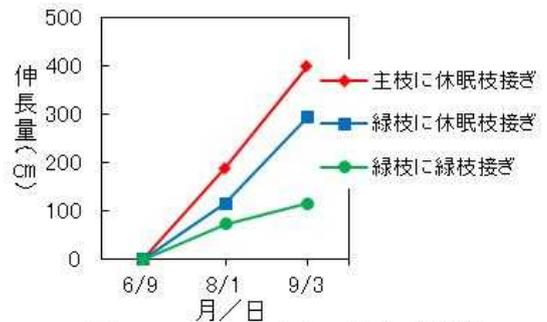


図2 シェインマスカットの穂木の種類と新梢伸長量 (中間台: 藤総)

表2 高接ぎ翌年の収量、果実品質

供試品種	収量(ノ樹)		果房重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (%)
	果房数	重量(kg)			
ブラックビート	15	20.7	636.3	16.5	0.48
シャインマスカット	12	11.4	541.9	24.3	0.27
クイーンニーナ	10	6.2	525.0	24.2	0.42

注)収量は3月に主枝を切断して5月に接ぎ木した主枝から試算

【技術の活用】登録品種の高接ぎには、その栽培者自身が既に購入した苗木等から採取した穂木のみ利用できません(種苗法)。高接ぎ更新は、苗木による計画的な更新を補うために行います。